

● 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大学院情報科学研究科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大学院情報科学研究科は、学位授与方針に掲げる人材を養成するため、次の特色ある取組により各専攻の教育課程を編成・実施します。

【双峰型教育システム】

広い視野と柔軟な発想力を持ち、高度情報社会の発展と知識基盤社会の進展のために活躍できる研究者・技術者となれるよう、所属する専攻から主専修科目16単位を必修とし、所属しない専攻から副専修科目として4単位以上を選択する「双峰型教育」を実施します。

【国際性の涵養】

全専攻で英語あるいは英語・日本語併用で実施される講義を開設します。外国研究発表旅費支援および英語論文校正費支援をする「国際的で多様な価値創造人材育成事業」を大学院教育プログラムの一つとして実施し、修士ならびに博士の学位論文に係る研究について国際的な場で発表するための支援をおこないます。

【特色ある教育プログラム】

国際性啓発教育プログラムの開発や産学連携教育プログラムを提供する CEED (Center for Engineering Education Development) では、英語力を強化するための科目等を開講し、国内外の企業等でのインターンシップを支援します。

【キャリア形成の支援】

就職企画室を組織し、産業技術フォーラムなどを実施することで専攻横断的なキャリア教育をおこない、多様なキャリア形成を積極的に支援します。

【教育の質保証】

高い教育の質を保証するため、FD推進室を組織し、教員の教育資質を高めるFD研修への参加を義務付けます。また、教育企画室を組織し、学習や進路相談等の学生支援、教育制度の評価により制度改革を持続的に進める評価を実施します。

情報理工学専攻の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

情報理工学専攻では、学位授与方針に定めた能力を持つ人材の育成を目標として、双峰型教育システムのもと、以下の通りカリキュラムを編成し実施します。

■修士課程

- ・複合情報工学・知識ソフトウェア科学・数理科学・大規模情報システム学にわたる総合的な研究開発能力を習得するために必要な科目群を開講します。
- ・先端の学術研究動向を基盤としつつ、これら多層の技術領域に亘る教育を総合的・融合的かつ国際的に実践・推進します。
- ・各研究室において、情報理工学各分野の修士論文研究について綿密な指導を行います。
- ・最先端のトピックスに関して学外の専門家から集中的に学ぶ機会として情報理工学特別講義を開講します。
- ・TA業務を通じて、様々なキャリアで必要となる教育力の向上を図ります。

■博士課程

- ・他専攻の科目履修を課すことにより、自身の専門分野にとどまらない幅広い専門的知識の獲得を図ります。
- ・自立した研究者に必要な問題解決力と論文作成方法を習得するため、各研究室において特別研究を開講し、博士論文研究を支援します。
- ・RA業務等を通じて、研究開発の場で必要となる問題解決能力やプロジェクト推進能力の向上を図ります。

情報エレクトロニクス専攻の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

情報エレクトロニクス専攻では、学位授与方針に定めた能力を持つ人材の育成を目標として、双峰型教育システムのもと、以下の通りカリキュラムを編成し実施します。

■修士課程

- ・材料・デバイス・回路・システムにわたる総合的な研究開発能力を習得するために必要な科目群を開講します。
- ・先端の学術研究動向を基盤としつつ、これら多層の技術領域に亘る教育を総合的・融合的かつ国際的に実践・推進します。
- ・各研究室において、情報エレクトロニクス各分野の修士論文研究について綿密な指導を行います。
- ・最先端のトピックスに関して学外の専門家から集中的に学ぶ機会として情報エレクトロニクス特別講義を開講します。
- ・TA業務を通じて、様々なキャリアで必要となる教育力の向上を図ります。

■博士課程

- ・他専攻の科目履修を課すことにより、自身の専門分野にとどまらない幅広い専門的知識の獲得を図ります。
- ・自立した研究者に必要となる問題解決力と論文作成方法を習得するため、各研究室において特別研究を開講し、博士論文研究を支援します。
- ・RA業務等を通じて、研究開発の場で必要となる問題解決能力やプロジェクト推進能力の向上を図ります。

生命人間情報科学専攻の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

生命人間情報科学専攻では、情報科学研究科の教育課程編成・実施の方針に従い、学位授与水準に定めた能力を持つ人材の育成を目指すとともに、情報科学研究科の双峰型教育システムにおける生命科学・生体工学教育の提供を行うために、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

■修士課程

- ・生命科学ならびに生体工学に関する高度な専門性を身に付けるための科目群を開講します。
- ・英語・日本語併用専門科目を複数開講します。
- ・各研究室において、生命人間情報科学分野の最新研究を調査し実践するために、生命人間情報科学特別演習を開講し、問題の発見・分析・解決のための能力の獲得を促します。
- ・修士論文研究をより完成した高度なものにすることを目的として、所属研究室以外の教員等も助言を行う中間研究報告会を実施します。
- ・教育補助業務（TA）を通じて、様々な職種でも必要とされる教育・指導力の向上を図ります。

■博士後期課程

- ・自立して研究を行うために必須となる、専門知識の収集と客観的分析の能力、問題の発見・解決能力、高度な研究発表技術の習得のために、各研究室において生命人間情報科学特別研究を開講し、博士論文研究を支援します。
- ・生命人間情報科学専攻以外の専攻および他大学院の科目履修を課すことにより、異分野を含む幅広い専門知識の獲得を促します。
- ・博士論文研究をより完成した高度なものにすることを目的として、所属研究室以外の教員等も助言を行う中間研究報告会を実施します。
- ・高度なTAおよび研究補助業務（RA）等を通じて、生命人間情報科学分野で必要とされる高度な教育・指導能力および研究遂行能力の向上を図ります。

メディアネットワーク専攻の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

メディアネットワーク専攻では、学位授与水準に定めた能力を持つ人材の育成を目標として、双峰型教育システムのもと、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

■修士課程

- ・情報メディアと情報通信分野に関する高度な専門性を身に付けるために必要な科目群を開講します。
- ・情報メディアと情報通信の幅広い領域に対応できる知識・能力を修得するため、情報科学研究科の他専攻（情報理工学専攻、情報エレクトロニクス専攻、生命人間情報科学専攻、システム情報科学専攻）と協力し、大学院レベルの高度な基盤科目群を開講します。
- ・各研究室においてゼミナールを中心とした特別演習を開講し、研究指導を受けながら情報メディアと情報通信分野の研究を行います。
- ・必要に応じて副指導教員を選定し、複数の教員からアドバイスを受けることのできる多様で広い知見に基づいた研究環境を提供します。
- ・TA業務を通じて、様々な職業で必要となる教育力の向上を図ります。

■博士後期課程

- ・他専攻あるいは他研究科からの科目履修を課すことにより、自身の専門分野に留まらない幅広い専門的知識の獲得を図ります。
- ・自立した研究者に必要な問題解決と論文作成方法を習得するため、各研究室において特別研究を開講し、博士論文研究を支援します。
- ・必要に応じて副指導教員を選定し、所属研究室以外の教員等からもアドバイスを受けることのできる多様な広い知見に基づいた教育研究環境を提供し、優れた博士論文研究を支援します。
- ・産業界との合同フォーラムを博士後期課程の学生が中心となって企画・運営する機会を提供し、リーダーシップの醸成を図るとともに、企業の先端技術に触れる機会を提供します。
- ・高度なTA・RA業務等を通じて、大学あるいは情報科学の研究開発の場で必要となる優れた教育力とプロジェクト遂行能力の向上を図ります。

システム情報科学専攻の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

システム情報科学専攻では、学位授与水準に定めた能力を持つ人材の育成を目標として、双峰型教育システムのもと、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

■修士課程

- ・システム情報科学に関する高度の専門性を体系的に身につけるために必要な科目群を開講します。
- ・外部講師を含む特別講演の聴講と、他の研究室の研究テーマに小グループで取り組む演習からなる特別演習 I を開講し、幅広い分野に対する関心と知識を培います。
- ・各研究室において、システム情報科学分野の最新の研究動向を調査・研究するために、ゼミナールと文献購読を中心とした特別演習 II を開講し、問題を分析して解決する能力を養います。
- ・専攻に設置されている3つの連携講座所属の客員教員による科目を開講し、産業界や大型研究プロジェクトの最新動向についての理解向上を図ります。
- ・1年次2学期半ばに修士論文研究の進捗報告をポスター発表形式の公開中間報告会により実施し、所属研究室以外の教員から指導や助言を受ける貴会を設けることにより、優れた修士論文研究を支援します。
- ・システム情報科学専攻の一部の科目を英語で開講します。これにより、国際的に活躍する上で重要な日本人学生の英語の能力向上を図り、日本語能力に不安を持つ外国人留学生の学習の利便を図ります。
- ・TA業務を通じて、様々な職業で必要となる教育力の向上を図ります。

■博士後期課程

- ・他専攻、研究科共通あるいは他研究科からの科目履修を課すことにより、自身の専門分野に留まらない幅広い専門知識の獲得を図ります。
- ・自立した研究者に必要な問題解決力の強化と論文作成方法習得を促進するため、各研究室において特別研究を開講し、博士論文研究を支援します。
- ・2年次の2学期半ばに博士論文研究のポスター発表形式の公開中間報告会を実施し、所属研究室以外の教員から指導や助言を受けることにより、優れた博士論文研究を支援します。
- ・学位論文をまとめる前に、学生ごとに組織される研究指導委員会からの研究内容と論文執筆に関する指導を行い、学位取得に向けた研究成果の取りまとめを支援します。
- ・高度なTA・RA業務等を通じて、大学、研究組織、企業等の研究開発の場で必要となる優れた指導力と業務遂行能力の向上を図ります。